

CWA NEWS



会長あいさつ



千葉県ウィスコンシン協会
会長 茂木 友三郎

平成27年最初のCWA NEWSの発刊に当たりご挨拶を申し上げます。

日頃より千葉県ウィスコンシン協会の交流事業等に格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今年には千葉県とウィスコンシン州が姉妹県州の提携をしてから25周年にあたります。平成2年の調印式にあたり当時の沼田武知事は、「千葉県とウィスコンシン州の絆をより強め、日米間の国際交流をより一層深めるよう貢献してまいりたい」と決意を述べられています。その後、ウィスコンシン州側との交流を県民主体で、より地域に根ざした交流とするため、千葉県側の交流窓口として平成16年に当協会が設立されました。この間、関係各位のご努力により、幅広い分野において交流活動が展開されてきましたことは誠に嬉しい限りです。

昨年11月には、ウィスコンシン州から文化・芸術グループ、科学・技術グループ及び教育グループの13名の使節団が来葉しました。文化・芸術グループは、成田市内及び茂原市内の高等学校、イベント会場並びに成田市内の中学校、社会福祉施設などでアイルランド系の伝統音楽を披露し、好評だったと伺いました。また、科学・技術グループや教育グループも県内各地の視察等を通じて交流を深めたと伺い大変嬉しく思っています。

さらに、ホームステイにご協力いただいたホストファミリーの皆様には、心からのおもてなしをしていただき、使節団員から終生忘れられない経験をしたとの報告があったと伺いました。皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

本年は、ウィスコンシン州に友好使節団を派遣することにしてありますが、千葉県の素晴らしさを紹介し、友情と交流をさらに深めて頂きたいと期待しております。

結びに、当協会の交流事業等につきまして、今後とも皆様方のより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ウィスコンシン州友好使節団来葉 ―フェアウェルパーティーに55名参加―

昨年11月に来葉したウィスコンシン州友好使節団のフェアウェルパーティーが、去る11月8日(土)にメルキュール成田エアポートホテルで開催されました。

今回の友好使節団は文化・芸術グループ8名、教育グループ3名、科学・技術グループ2名の計13名で団長は Sharon Durtka さんでした。一行は11月3日(月)から約一週間、千葉県内各地で精力的に交流され、同月10日(月)に帰国しました。

パーティー当日は小雨混じりの肌寒い日でしたが、御来賓の方々、ホストファミリー、ウィスコンシン出身のALT、千葉ウィスコンシン協会会員等、55名が参加しました。

はじめに、高柳哲男当協会常務理事が、使節団員の方々に来葉への感謝の意を表するとともに、本事業に協力して下さった成田市、県内大学及び企業関係者の方々にお礼を述べられました。来賓の板倉正典千葉県総合企画部次長からは、使節団交流の主体となって活動しているウィスコンシン千葉委員会と千葉ウィスコンシン協会への労いのこととともに今後も末長く交流が続くことを願っておりますとのお挨拶をいただきました。



高柳哲男常務理事



板倉正典総合企画部次長



Durtka団長



椿『八華会』代表の音頭で乾杯

これを受け、ウィスコンシン千葉委員会委員長の Durtka さんからは 1990 年に姉妹提携以来、数多くの交流があり、訪問した先々でのおもてなしは我々の大きな遺産となり、姉妹都市としての絆が強くなった。この交流が未来へ継承されるものと信じています、と語られました。

ホストファミリーの代表の椿和歌子さまによる乾杯のご挨拶後、心温まる交流の輪があちらこちらで拡がりました。そして、当協会と使節団員との間で記念品の交換や運営委員の浅沼明夫さんの社中の皆様による三味線・太鼓・尺八での謡曲の披露など、時間は瞬く間にすぎ、記念撮影を最後にフェアウェルパーティーはお開きとなりました。

ウィスコンシン州友好使節団が知事表敬

昨年11月6日、千葉県との姉妹州であるウィスコンシン州友好使節団(13名)が千葉県庁を訪れ、森田知事が出迎えました。「ウェルカム」とはつらつとした声で登場した森田知事は、小さい頃にテレビでアメリカのホームドラマを見て以来、アメリカに憧れをもっていたと明かし、夢と希望と情熱をもらったアメリカからみなさんをお迎えできて大変うれしいです、と使節団一行を歓迎しました。

これに対し、使節団団長のウィスコンシン千葉委員会委員長 Durtka さんは、使節団の派遣を通じてこれからもお互いの理解と友情を深めたいと交流への意気込みを語りました。

1990年にウィスコンシン州と姉妹提携をして以降、使節団として派遣された人は、千葉県とウィスコンシン州を合わせて、延べ1,500人に上ります。



森田千葉県知事を囲んで記念撮影

各グループの交流活動

文化・芸術グループ

文化・芸術グループは、"Garlic Mustard Pickers"というアイルランド系移民の音楽を継承しているグループです。公園に蔓延るGarlic Mustard（雑草）の清掃作業にボランティアで参加した、音楽が大好きな3名が配偶者や友人を誘って演奏したのがグループの始まりです。最初の演奏で得た収益は地域のプロジェクトに寄付され、この事がその後の彼らのミッションとなり、今では、既に22,000ドル以上を寄付し地域生活の質向上に貢献しています。

今回は成田市及び茂原市を中心に公演活動をしていただきましたが、普段聴く音楽とは違った演奏は聴衆の拍手喝さいを浴びていました。

なお、使節団員からは今回の訪問を通じて様々な出会いがあったことや感謝の気持ちを伝えるメッセージが届いています（関連記事6ページ）。

＜団員＞	Sharon Durtka	使節団団長
	Donald Lawson	打弦楽器
	Barbara Groth	フイドウル（ヴァイオリンに似た楽器）
	Joseph Wilhelm	アイルランドのフレームドラム
	Debra Wilhelm	ヴァイオリン
	David Uhrig	ギター
	Pamel Uhrig	フルート
	Mark Wooldrage	バス、ギター



着物の試着



社会福祉施設「まごころ」での演奏



長生高校にて交流



初めての書道体験（成田国際高校）



茶道体験

＜行程＞

- 11/4 着付け体験 成田山新勝寺 日本舞踊見学
(成田市)
- 11/5 社会福祉施設(まごころ) 県立成田国際高校
(成田市)
- 11/6 千葉市郷土博物館 (千葉市)
県立長生高校 茂原市総合市民センター
(茂原市)
- 11/7 茶道体験 公津の杜中学校・西中学校(成田市)
- 11/8 地域伝統芸能全国大会 (成田市)

教育グループ



神田外語大学で案内役の星智子さん（右端）に挨拶「始めまして」



県立保健医療大学仁戸名キャンパスで記念撮影



県立保健医療大学幕張本校でのキャンパスツアー

<行程>

- | | | |
|------|-------------------|-------------------|
| 11/4 | 神田外語大学 | 県立保健医療大学（千葉市） |
| 11/5 | IES Abroad 東京センター | 千葉大学国際教育センター（千葉市） |
| 11/6 | 千葉市郷土博物館 | ウィスコンシン友好広場（千葉市） |
| | サッポロビール(株)千葉工場 | （船橋市） |
| 11/7 | 和郷園 | （香取市） |

初日は神田外語大学を訪問し、広い敷地のキャンパスツアーを行い、学食で昼飯をご馳走になりました。その後県立保健医療大学の訪問でしたが、最初に千葉市中央区にある仁戸名キャンパスを訪問し、安部能成教授の授業を見学し、その後また美浜区にある幕張本校舎を訪ねました。

2日目は海浜幕張駅の近くにあるIES Abroad 東京オフィスを訪見、米国の大学生が大学同士の交換プログラム以外のルートで日本に学びにくる交流斡旋機関の説明を所長のKarl Friday氏（日本在住30年以上の日本史学者）とコーディネーターの石川真理子さんにしてもらいました。

その後西千葉駅近くの千葉大学国際教育センターを訪問し、新倉涼子教授のご手配のもと、訪問側・受入れ側双方の大学紹介を行った後、アカデミックリンクセンター（図書館）とEnglish House を訪問し、英語の話せる学生6名とフリーディスカッションをし、Janis Gytanis 教授の国際授業を見学する欲張りなスケジュールでした。

なお、使節団員から千葉大学で学生の話聞いたことが1つのハイライトだったとのメッセージが届きました（関連記事は6, 7ページ）。

<団員> Barbara Ann Prindville

Waukesha County Technical College元学長、名誉学長

K. Austin Baade

Waukesha County Technical College国際教育コーディネーター

Judith Prest

Milwaukee School of Engineering
トランスファーアドミッションカウンセラー



IES Abroad 東京センターのあるビルからの帰途



千葉大学学生と英語で対話した後、記念撮影

科学・技術グループ

科学・技術グループは、11月4日（火）から7日（金）の間、千葉大学環境健康フィールド科学センターや（株）みらいの植物工場を始め、関係の企業等を視察しました。Ms. Bonnie HalvorsenとMr. Damian Colemanのお二人は、農業や栄養学の専門の立場で、農業だけでなく多方面について熱心に視察をしました。

千葉大学や（株）みらいの視察では、前年度に友好使節団としてウィスコンシン州を訪問された古在豊樹千葉大学名誉教授や嶋村茂治社長に対応して頂きました。

また、使節団員からは都市農業への関心の高さを示すメッセージも届いています（関連記事7ページ）。

なお、日程の中で、6日（木）に全グループが合流して、森田健作知事を表敬訪問した後については、教育グループと一緒に行動しました。

<団員>

Bonnie Halvorsen

UW Milwaukee 都市農業・食品研究所ディレクター

Damian Coleman

エリベ・コンポスト（肥料会社）共同オーナー・
堆肥マスター



千葉大学植物工場を視察



(株)みらい植物工場を視察



ウィスコンシン友好広場にて



キッコーマン（株）訪問



和郷園のバイオマスプラント視察

<行程>

- | | | |
|------|------------------------------------|----------------|
| 11/4 | 千葉大学環境健康フィールド科学センター
(株)みらい | (柏市) |
| 11/5 | キッコーマン(株) 茂木本家美術館
野田市郷土博物館・市民会館 | (野田市) |
| 11/6 | ウィスコンシン友好広場
サッポロビール(株)千葉工場 | (千葉市)
(船橋市) |
| 11/7 | 和郷園 | (香取市) |

2014ウィスコンシン州友好使節団からの報告

*日本語は紙面の都合で意訳としました。



文化・芸術グループ Barbara Groth

Trip Report for the Cultural Exchange Group in the 2014 Wisconsin-Chiba Inc. Delegation

The Cultural Exchange Contingent of the 2014 Wisconsin-Chiba Inc. (WCI) delegation was The Garlic Mustard Pickers. This is a traditional Celtic music group with its roots in community service work. The band is made up of eight musicians, seven of whom were able to travel with the WCI delegation.

Since all seven of the musicians were seasoned travelers, they all had some expectation of what the trip to Japan might be like, especially with an orientation provided by Sharon Durtka. However, the actual experiences of the musicians went far beyond anything that they might have expected. Host families were extremely welcoming and honored their guests in many, many appreciated ways. Although none of us spoke Japanese and most of our hosts little or no English, we managed to communicate the best things of all: happiness, politeness, and appreciation. We will always remember our hosts with great honor.

Our trip itinerary involved many wonderful sites, which were quite varied, and excellent for a cultural delegation. We toured the dance studio run by Tsubaki Wakako, the grandmother of the Tsubaki family, and tried on traditional kimono, a large Buddhist temple complex in Narita (the Naritasan Shinshoji Temple) and its 'Ghosa' ceremony of burning sticks with messages on them, the house of the Tsubaki family, where we were treated to a potluck meal provided by all the Cultural Exchange host families as well as an exhibition of traditional dancing. Magokoro 'Be Ambitious' Social Welfare Corporation, Narita Kokusai High School, the Chiba folk museum, Chiba Prefecture Governmental Office where we were introduced to the governor of Chiba, Suzuki Eiji, Chosei High School in Mobara, two performances in the Mobara City Center, traditional tea ceremony at Akasaka Community Center, Kozu-no-mori and Nishi Junior High Schools, and the Narita 60th Anniversary Folk Festival. All of these places met us with graceful meals, green tea servings, many useful and beautiful gifts, and interesting information and background and tours of the organizations. We ate in some wonderful places, and were entranced with Japan's beautiful and delicious food. On our last day we took a guided trip to Tokyo which included shopping, temples, and restaurants. We loved taking the public transportation there and back!

Our traditional Celtic music band (The Garlic Mustard Pickers, Inc.) is extremely grateful for receiving the opportunity to be the Cultural Exchange contingent of the 2014 WCI delegation. Several of us are teachers, and the visits to the schools were particularly rewarding. The cultures within Japanese schools offer a model from which American school administrators could learn much. For all of us, the visits to the various religious sites (both in Narita and in Tokyo) were very illuminating.

All of our musicians feel great gratitude toward the host families who so generously provided us with a view of Japanese home life. This is something that most Americans visiting Japan could never experience. We feel very fortunate, and very honored, to have been welcomed as guests in these homes.

The musicians of The Garlic Mustard Pickers offers sincere thanks to the members of the Chiba-Wisconsin Association, and in particular to the Secretary-General of that organization, Yasuko Aoki. The amount of work that she and her associates put into organizing the logistics of our visit is, as judged by the results, truly impressive and amazing. We are also deeply in Yasuko-san's debt for her dedication to our comfort and support, both before our visit, and during our visit.

2014年の文化交流派遣団は“ガーリック・マスタード・ピッカーズ”です。

このケルト伝統音楽バンドは、地域の奉仕活動に根ざした8名のメンバーで構成され、そのうちの7名が千葉に参りました。

7名とも来日前いろいろと思いを巡らせていましたが、実際に経験したことは、想像をはるかに超えるものでした。ホストファミリーは、とても暖かく迎え入れて下さいました。我々は日本語が話せず、ほとんどのホストファミリーも英語が少し或いはまったく話せなかったのですが、我々は幸福感、思いやり、感謝の気持ちをどうにか伝えることが出来ました。ホストファミリーを務めてくださった方々に対し、これからも敬意の念を持ち続けて行きたいと思えます。

文化使節団にとって今回の行程は、かなり多様性に富む、優れた素晴らしいものでした。椿家が運営している舞踊場では伝統的な着物を試着、広大な成田山新勝寺ではメッセージが書かれた木を燃やす「護摩炊き」の儀式を見学しました。また、椿家では前年度ウィスコンシンを訪問した文化使節団員のすべてのご家族が集まり、『ポットラックパーティー』と伝統舞踊の披露でもてなしていただきました。

公演先の成田市の社会福祉施設「まごころ」、成田国際高校、公津の杜及び西中学校、市制施行60周年記念「日本の祭りin成田2014」や茂原市の長生高校及び市民センターで演奏を披露しました。

また、千葉県知事への表敬訪問や千葉県郷土博物館の見学、赤坂コミュニティセンターでのお茶会、これらの全ての場所で素晴らしい経験をしました。そして、素敵な場所であつた、優美で美味しい日本食にすっかり魅了されてしまいました。

我々は、今回文化使節団に参加することで貴重な経験をすることが出来ました。そして日本の家庭生活を惜しみなく見せて下さったホストファミリーの皆様にとっても感謝しています。

最後に、我々のために献身的に動いて下さった CWA、特に青木さんに心から感謝の念を捧げます。



教育グループ Barbara Ann Prindiville

Wisconsin Chiba, Inc. Goodwill Delegation Education Exchange 2014

The arrival to Narita Airport on Monday, November 3 began one of the most heartwarming and cultural exchanges of a life-time for us. We were met by several of the Chiba Delegation... Tadao ANDO, Chiba International Center Director, Yasuko AOKI, Secretary General, and Shigeo MORIYAMA, Chair, Steering Committee, plus many other dignitaries.

The next day on November 4, 2014, we started our visits to many universities starting with Kanda University. Our guides were Teruo ABE, Steering Committee Member and Ms. Hiroko DOI, Member. They were so informative and very helpful as we moved along on our journey. Kanda University's Shingo KAWANO, Manager International Affairs and Ms. Tomoko HOSHI, International Affairs, Academic Administration greeted us. She showed us in the lobby a momentous saying, "LANGUAGES ARE THE FOUNDATION TO LINK THE WORLD IN PEACE." We thought about this many times on our journey on how important the Chiba Wisconsin exchange is to help both countries understand each other.

We continued on to visit Chiba Prefectural University of Health Sciences on the Nitona Campus. We had an amazing experience to visit the classroom with Professor Paul Kazumari ABE where students gave reports in the Occupational Therapy for Physical Dysfunction program. It was stimulating to listen and learn from them. Dr. Prindiville's background was in the medical field so she asked the students questions about the anatomy within their reports. The class then presented us with many beautiful gifts. We are still in awe of their generosity toward us!

We continued our day at the Makuhari Campus where we met with the

私たちの行程は、CWAの阿部照夫さんと土居担子さんのガイドで、神田外語大の訪問からスタートしました。同大学では国際交流課の星智子様から、玄関ロビーにある壁面の文字「言葉は平和な世界を繋ぐ基礎である」について説明して下さり、千葉県とウィスコン州の両州県がお互いを理解することが如何に大切かを痛感しました。

続いて、千葉県立保健医療大学の仁戸名キャンパスでは安部能成教授の授業を見学し、その内容が私の専門分野だったので、私から質問をしました。授業の終わりには、学生たちがお土産をプレゼントしてくれました。また、同大学の幕張キャンパスでは、工藤ふみよ教授、杉田めぐみ講師、林英美講師にお会いし、同校の素晴らしい歯科衛生施設を見学しました。

その日の夜から2日間ホームステイを経験しました。私とジュディのホストファミリーは合同パーティを開いて下さり、日本の食事や家族、楽しみという日本文化を堪能しました。しかも最後の朝は、近くの魚

Department of Nutrition Health Care Science professors Fumiyo KUDO, M.D., Ph.D., Megumi SUGITA, and Assistant Professor Fumi HAYASHI, Ph.D., R.D. They showed us their impressive Dental Hygiene labs.

At the end of our day, each of us in the educational group spent the next two evenings with our host family. We can't begin to express what a wonderful experience this was for us. Barbara and Judy's host families went above and beyond to plan a combined party, to share the cultural aspects of Japanese food, families, and fun! On our last morning together we went to the Fish Market for breakfast. We were truly in awe of this remarkable experience and will forever cherish the time we spent sharing and learning from our families.

Barbara celebrated her birthday with her host family, Koza and Miho NAKA and their children who presented her with a birthday cake and kimono.

The following day on November 5, 2014, we began our day at the IES Center with Karl FRIDAY, Ph.D., Center Director and Ms. Mariko ISHIKAWA, Staff IES who gave us an informative presentation on their mission and future vision. This led to a lively discussion about student exchanges between our two countries.

In the afternoon, we had the privilege to visit Chiba University. We were greeted by Deputy Vice-President/International Affairs Dr. Ryoko NIJKURA, Professors Aya YOSHINO and Natsumi NISHIKAWA who had us meet with their students. It was so nice to interact with them. The students had many questions for us, too. One of the students had just returned from an exchange at UW-Milwaukee, WI and it was interesting to hear her thoughts regarding the two countries and their cultures. This was one of the highlights of the trip for us. We always like to learn from the students because they have become so worldly in their thinking.

The Chiba Committee worked very hard to make sure that we were exposed to learning and seeing as much as we could in a week's time. They were amazing guides and became our friends that we will cherish for a life-time!

Thank you to all of you!
Respectfully submitted,



科学・技術グループ Bonnie Halvorsen

Chiba Wisconsin 2014 Delegation Science Technology Group Report

On our first day in Chiba, our gracious guides Mr. Moriyama, Mr. Nogi and Mr. Hayashi brought us to Kashiwa City to visit Dr. Kozai and Mr. Shimamura, who were members of the 2013 Delegation visiting Wisconsin.

Dr. Kozai showed us the Plant Factory in the Center for Environment, Health and Field Sciences of Chiba University. His research involves vegetable production in hydroponic systems for urban settings, and will increase local food access, create urban jobs, and improve urban aesthetics. The demonstration lab is remarkable, a place where beauty and science live together harmoniously. Before we left campus, we visited the herbal dispensary of Dr. Megumi Sumino who prepares herbal remedies for patients of the on-campus clinic, as well as the Chemiles-town Project, a model town build with chemical-free materials.

At the MIRAI factory, Mr. Shimamura showed us the nearly 14,000 square foot factory, which houses rows of 25-foot hydroponic towers. The lovely young pesticide-free greens are grown under hybrid fluorescent and LED lighting. MIRAI, responsible for developing this innovative technology, has installations in Antarctica and Mongolia, with plans to build in Hong Kong and Russia, bringing year-round production of fresh greens.

That evening, we stayed in Noda City. My hosts Ayumu and Yoko Furuya, and their children warmly welcomed me. Yoko and 10-year-old Kyoka made a beautiful traditional Japanese dinner and performed the time-honored tea ceremony. Ayumu works with Mitsui Fudosan Co. Ltd., the architect of Kashiwa-no-ha Smart City, a model district where people can sustainably live, work, and play, and where together, they tackle issues of health, environment, and economy. Professor Kozai and Mr. Shimamura are members of Plant Factory Consortium Kashiwa-no-ha. This is a visionary concept, and the time to implement it is now.

Wednesday, Mr. Nogi and Mr. Moriyama showed us the fascinating Kikkoman sites, including the brewery that had many educational, interactive displays. We learned that the majority of soy and wheat purchased by Kikkoman to make soy sauce in Japan is grown in Wisconsin. We had a special tour of the Goyogura where shoyu (soy sauce) is made exclusively for the Imperial Household. We tasted Shoyu Icecream, which was outstanding, and our hosts generously gifted us with a bottle of the rare Imperial Shoyu! We visited the International Food Culture Research Center, the Mogi-Honke Museum of Art and the historic Civic Hall.

Thursday, we had the honor to meet Governor Kensaku Morita, and a refreshing and informative tour of the attractive Sapporo Beer Chiba Brewery.

Friday we visited Wagogen Co. Ltd., an innovative cooperative of regional fruit and vegetable producers, processors, marketers, and recyclers. They have been successfully rethinking organic local food systems for 30 years. It is a remarkably visionary organization.

We were often asked this question: Why are Americans interested in urban agriculture when you have all that land to grow food? The answer: only 8% of our agriculture is fresh food grown for human consumption. The rest is grown for livestock feed, industry, commercial trade, et cetera. We urgently need to make more fresh food available in the urban centers. We believe urban agriculture is the solution, and Kashiwa-no-ha Smart City and Wagogen are brilliant examples.

The Science Technology tour was fascinating and inspiring. The Japanese are far advanced in the field of urban agriculture, and Americans will greatly benefit from their ingenuity and willingness to build partnerships. Damian Coleman and I have been deeply honored to serve as the Science Technology Group in the 2014 Chiba-Wisconsin Delegation. We look forward to sharing what we learned with our colleagues in Wisconsin, and to building partnerships in Chiba.

Respectfully submitted,

市場で朝食というもてなしでした。この素晴らしい体験は終生忘れません。また、私はホストファミリーのご家族から誕生日を祝って貰い、着物をプレゼントされました。

翌日IESセンターを訪ね、石川真理子コーディネーターから同センターの使命と将来ビジョンをパワーポイントでプレゼンして頂いた後、カール・フライデー代表と米国と日本の学生交流に関する活発な討議をしました。

その後、千葉大学を訪問し、国際教育センターの新倉涼子教授、吉野文准教授、西川奈津美様にお会いし、学生たちと討論の機会も得ました。学生たちから沢山の質問を受け、1人の学生はウイスコンシン大学ミルウォーキー校から戻ってきたばかりとのことで、両国の文化に関する感想を聞いたことは大変興味深く、今回の旅行のハイライトでもありました。

CWAの皆様は私たちに1週間の学びと見学の旅を提供して下さいました。皆さんは素晴らしいガイドであり、生涯思い出に残る友達となりました。

私たちの行程の初日は柏市で、CWAの野木、林、森山各氏の随行で、前年度の友好使節団としてウイスコンシン州にいられた古在博士や嶋村社長の大学や企業を訪問しました。

まず、千葉大学環境健康フィールド科学センターでは、古在博士が植物工場を案内してくれました。展示用研究施設は素晴らしいもので、美しさや科学性が調和していました。また、大学構内では角野博士が薬草治療に使用している薬用植物の展示なども見学しました。

(株)みらいの植物工場では、嶋村社長が工場を案内してくれました。そこでは、蛍光灯とLEDを併用した照明の下で農薬を全く使わないみずみずしい野菜が育てられていました。

その日は、野田市内に滞在しました。私のホストである古谷歩、陽子夫妻と子供達が温かく迎え入れてくれ、陽子さんや10才の京香さんが美しい伝統的な和食を用意し、その後、お茶を点ててくれました。

翌日、キッコーマン(株)の工場を訪問し、天皇家用に特別に醤油を製造している御用蔵などを見学した後、醤油アイスクリームを賞味しました。

その他にも、森田健作千葉県知事の表敬訪問や和郷園などを見学しました。

我々はよく「何故アメリカ人は、食物生産に必要な広大な国土があるのに、都市農業に興味があるのか」と訊かれます。その問いには「食用として生産されている新鮮な食料は我が国の農業生産のたったの8%にすぎないから」と答えます。残りは、家畜の餌、工業用や輸出用、その他の用途のために生産されているのです。我々は、都市部においてより多くの新鮮な食料を生産することが緊急に必要であり、都市農業はその解決策です。柏の葉スマートシティや和郷園はその良い事例なのです。

科学・技術グループの日程は、素晴らしいものでした。日本人は、都市農業の分野で非常に進んでおり、アメリカ人は、パートナーシップを築くための創意工夫や意欲の面で多くを学ぶことが出来るでしょう。私達が学んだことをウイスコンシン州に帰って同僚達と共有し、千葉県とのパートナーシップを築いて行きたいと思えます。

ホストファミリーを体験して

ホストファミリーのうち2家族から寄稿していただきましたのでご紹介します。



椿家で歓迎会を開いた時の様子

11月初旬に、ウイスコンシン州から文化交流グループの8名が来日されました。11月4日から8日まで、ホームステイ受け入れをさせていただきました楽しい時間を過ごすことができました。男性4名、女性3名のTHE GARLIC MUSTARD PICKERS という、アイリッシュ音楽を演奏するグループの皆さんです。

歓迎パーティーの際には、昨年ウイスコンシン州へ派遣されたメンバーが、日本舞踊を発表し、ゲストに日舞体験もさせていただきました。アイリッシュ音楽の演奏もして下さり、今度は日本の皆さんが踊る番です!!とお話で、他のホストファミリーと一緒に踊りました。日本舞踊のお稽古場にお出で頂き、髪、衣裳などの説明と着付体験もされました。180センチを超える大柄な方が多く裾が短い物もありましたが、喜んで写真撮影をされていました。裾引きを着た方が、裾が外へ折り返しているのが気になっているようでした。

ホームステイでは和室で布団でお休み頂きましたが、気をつかって朝には布団を畳んで下さいました。お風呂のバスタブは、大変気に入られたようで毎日浸かって疲れを癒されたようでした。食べ物は、刺身、天ぷらなどが人気で作る側も苦労なく用意できました。

家には4名の男性が宿泊されましたが、その中のお一人は、1400枚もの写真を撮影したそうです。彼のフェイスブックに、私や私の家族も登場しており気恥ずかしいですが、アメリカに友達が増え、文化交流が出来たことが嬉しいです。貴重な体験をさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

成田市 椿 理絵さん



フェアウェルパーティーにて



フェアウェルパーティーで

や和食を好んでくれたのは、とても嬉しかったです。

お別れパーティーは、家族揃って参加させて頂きました。楽しい時間はあっという間で、お別れの時は、ハグと涙なみだでした。しかし、その後もフェイスブックで近況をお互いを知ることができ、嬉しいことに交流が続いています。娘はいつミルウォーキーに行くの〜と、笑顔が絶えず、温かく接してくれたオースチンに会いたがっています。

貴重な体験をさせて頂き、深く感謝しております。またこのような機会がありましたら、受け入れさせて頂きたいと思っております。

千葉市 板井 麻恵さん

今回知人を通して、友好使節団を受け入れる機会をいただきました。基地の街で生まれ育った私は、国際交流はごく自然なことで、子供たちにもそんな環境を作りたいと思い、小さいころからホストファミリーをしていました。ただし、学生さんの受け入れでしたので、成人の方は初体験でした。

そのため、どのように交流したらよいか不安はありましたが、オースチンは子供たちにも終始笑顔で、分かりやすい英語で話しかけてくれました。娘が提案した折り紙も、楽しそうに一緒に作ってくれました。私はオースチンと晩酌をしながら、お酒とおしゃべりを楽しみました。オースチンが日本のお酒



お別れのハグ

3家族で行く！ ミルウォーキー体験記

古谷 歩さん(2012年友好使節団受入時のホストファミリー)

2014年8月19日(月)、私と小学4年生の娘、大木さん家族4人、北村さん家族3人の総勢9人は、アメリカはウィスコンシン州ミルウォーキーへ向けて出発しました。

きっかけは約2年前に遡ります。私達3家族は他の7家族と共に、2012年9月23日(日)から4泊5日の日程でアメリカウィスコンシン州からの友好使節団として来日したポメラニアンダンサー達をゲストとして家庭に迎え入れました。短い期間でしたが、一緒に食事をし、お互いの文化について語り合い、生涯忘れられない楽しい時間を過ごしました。

大木家、北村家とはこの交流をきっかけに知り合い、ゲストが帰国してからも一緒にホームパーティーやキャンプを楽しむようになりました。そして2013年末頃、ポメラニアンダンサーの Amy (大木家のゲスト) と Eric (我が家のゲスト) が結婚するという知らせを聞き、私達3家族は思い切ってアメリカに行って、ふたりの結婚式に出席することにしました。

乗り継ぎ等を含め15時間のフライト後、ミルウォーキーの空港へ到着した私達を Amy と Eric 夫妻、北村家のゲスト Tyler が温かく迎えてくれました。結婚式までの数日間、私と大木家は Amy と Eric の家庭に、北村家は Tyler の家庭でホームステイ。彼らのご両親と友人達も集まって、メジャーリーグ観戦やバーベキューで特大 T ボーンステーキをご馳走になるなど、心も体もすっかりアメリカを満喫し大はしゃぎでした。

そしていよいよ結婚式当日、私達は浴衣を着て参加しました。日本では決して正装とはいえない服装ですが、Amy と Eric はとても喜び、また会場では浴衣を着た私達を陽気なアメリカの方が気さくに声を掛けてくれたので、終始リラックスして楽しみました。

総勢 300 名以上が参加していた Wedding Party は、正に華やかそのもの。日本とは違い、ダンスミュージックにサングラスをした新郎新婦がノリノリで登場するところから始まり、長いスピーチは無く、途中から、誰でも参加出来るダンスタイムが始まりました。18時から始まった Party は 22 時を過ぎても終わる様子は無く、子供のいる私達は 22 時半頃にホテルの部屋に帰ってしまいましたが、翌朝聞くと、深夜1時頃まで楽しんでいた方もいたそうです。



結婚式の後お二人を囲んで



結婚披露宴

結婚式の翌朝は、Gift Opening というイベントがありました。アメリカでは、御祝儀袋にお金を入れて渡す習慣は無く、結婚式当日にプレゼントを持ってくるようですが、その Gift の中身を皆で確認し、メッセージを読んだり、面白い Gift を見て喜んだりしていました。

5泊6日のミルウォーキー滞在では、パッケージ旅行では決して得ることの出来ない体験をすることが出来ました。現地での様子を大木さんがビデオ撮影してくれていたもので、帰国後、皆で上映会を開催しました。残念ながら都合で一緒に行けなかった妻と息子(中1)も、映像を観てとても感動していました。

このような貴重な経験が出来たのも、千葉ウィスコンシン協会の方々やウィスコンシン州との交流に力を尽くされているお蔭です。友好使節団の受入れが野田市となり、その時ホストファミリーに応募したことで、何の繋がりもなかった私達に、大きな出会いの場が出来たことを嬉しく思っております。関係者の方々に改めて、感謝申し上げます。



Eric家で朝食



結婚式

行ってみよう ウィスコンシン州

Vol.9



元ウィスコンシン大学マディソン校留学生
戸崎 舞子さん (CWA会員)



冬の州議事堂

ウィスコンシン大学マディソン校は、同州に複数あるキャンパスの中でも主要な研究機関が集中し、州内外・国内外から多くの学生が学びに訪れるマンモス校です。

キャンパスはメンドータ湖とモノーナ湖という2つの湖に面していて、広大な敷地を誇ります。マディソンは四季がはっきりしていると言われていて、季節ごとに様々な活動を楽しむことができます。夏は湖畔のテラスがウィスコンシンの特産品でもある美味しいビールを飲む若者であふれ、野外イベントで盛り上がりますが、冬場は氷点下が当たり前で、凍った湖の上でスケートができるくらい冷え込みます。

キャンパス内には学生寮やアパートが多く存在し、ほとんどの学生が寮生活やルームシェアを行っていました。それぞれの寮やシェアハウスに特色があるのですが、私は留学生や国際関係学・語学に関心のある学生達の集まる国際寮に住みました。各国の料理を作り合ったり、映画を観たり、マディソンの若者に人気の文化を知る機会になりました。この留学中の寮生活で出会った日本語専攻の友人の中には、現在千葉県でALTとして英語教員をしている方も何人かいます。

ウィスコンシンでの大学生活はとにかく「忙しい!」の一言です。アメリカの大学ならではのかもしれませんが、大学の図書館は24時間空いているところもあり、膨大な課題に追われて朝まで勉強をする学生達の姿も多く見られました。私自身、寮にいた時間よりも教室や図書館にいた時間の方が長かったように思います。湖畔の図書館から見る朝日は格別でした。

一方で、魅力的なイベントが多いのもマディソンの楽しい所です。アメリカンフットボールのチームが非常に有名で、試合がある時は街中がスクールカラーの赤に染まり、大学のマスコットキャラクターである穴熊の「バッキー」と一緒に至る所で応援が行われていました。皆でチームの応援をしている時の一体感と興奮は今も忘れられません。

また、10月末のハロウィンのお祭り也非常に盛り上がります。ステートストリートという州議事堂と大学とを繋ぐ一直線の通りが、仮装した学生達で溢れかえります。ハロウィンの数週間前から部屋にこもって衣装を作る学生もいるくらい力作揃いで、見ていただけでもワクワクするようなお祭りです。

このように「よく学び、よく遊ぶ」を体現するウィスコンシン・マディソンでの学生生活は非常に刺激的でした。昨年、卒業旅行がてらマディソンに再度遊びに行ったのですが、変わらない人々の優しさと勤勉さ、自然の美しさに改めてウィスコンシンの魅力を感じました。ぜひ機会があれば、マディソンを訪れてみてください。

私は2011年の夏から1年弱、大学の交換留学制度を利用し、ウィスコンシン大学マディソン校にて大学生活を過ごしました。今回は、留学生の目から見たウィスコンシンの魅力や現地での留学生生活を少しでもお伝えできればと思います。

ウィスコンシン州の州都であるマディソンは自然に恵まれた非常に美しい大学都市です。毎年、治安の良さから「全米住みたい街ランキング」に名前が挙がるほどで、留学するには環境が整っている場所と言えます。ウィス



寮の友人たち

★ 食文化交流のつどい・Thanksgiving Party開催 ★



七面鳥に目が釘づけ!!!

昨年11月29日(土)、千葉市生涯学習センターで「食文化交流のつどい・Thanksgiving Party」が行われました。ウイスコンシン州出身で県内の各高等学校に着任されているALTのみなさんと一緒に料理や飲み物を作り、楽しいひと時を過ごせたらと考えて計画しました。

当日は10名のALTを含め32名のみなさんが参加してくださいました。参加して下さったみなさんが、この会を楽しみにしてくださっていることがよくわかりました。参加者は、それぞれ分担された場所でALTと一緒に作りました。大きな七面鳥がテーブルの上に出てきた時には全員がその前に集まり、歓声をあげました。食べ物を一緒に作って食べるのは楽しいことです。調理中、どのテーブルからも楽しい笑い声が聞こえてきました。2時間ほどかかって調理が終わり、机の上にたくさんの料理と飲み物が並べられました。こんがり焼けた七面鳥は、とてもおいしかったです。

用意されたウイスコンシンの地図を使って出身地について紹介していただいたり、現在の勤務校について教えていただいたりしました。参加者全員と一緒に料理や飲み物を作り、楽しいひと時を過ごすことで親睦を深めることができました。



みんなで一緒に作りました!!!



早く食べたい!!



楽しかった!!! 笑顔の参加者

★ 『2014国際フェスタCHIBA』に出展 ★



雨だれ防止に知恵を出しあい、テントの設営



私たちの出展ブース前ではペルーの民族舞踊等々の催しがあり、つい見入っちゃいました

『2014国際フェスタCHIBA』が昨年10月5日(日)に柏市の麗澤大学で開催され、CWAも参加しました。

東葛地域での初の出展ということもあり、CWAのPRを行うこと、ウイスコンシン州ゆかりのソーセージを使ったホットドック販売を行うことの2つを計画していました。

フェスタ当日は、台風18号の影響で朝から大雨であったため、フェスタの人数が心配になりました。例年、当該会場の入場者数が多いと伺っていたため、ホットドックの個数を前回より多く準備していましたので、目的をホットドックの販売活動の一本に絞らざるを得なくなりました。

グリルを持ち込み、ソーセージを焼くおいしい香りを醸しつづけてくれたジョンソンビルの斉藤さん、呼び込みに、販売にと八面六臂の大活躍のJamesさんとそのガールフレンドの方や東葛地域在住で当日のイベントスタッフになってくださったCWA会員のご協力をいただきながら、みんなで積極果敢に売り込み活動を展開したことが功を奏したようで、

終わってみると、前回は大幅に上回る売り上げとなっていました。

次回の国際フェスタCHIBAにも出展したいと考えています。皆様もぜひお出かけいただき、CWAブースにお立ち寄りください。

今後もCWAのPR活動とともに、収益確保に向けた活動を積極的に展開してまいります。



ホットドックの売れ行き好調!
温かいパンに、ピクルスを添えて、「毎度あり〜」

ウィスコンシン州出身のALTを紹介します！

県立高校には多くのウィスコンシン州出身のALTがいます。

ALTとは、Assistant Language Teacherの略で、外国語を母国語とする外国語指導助手をいいます。

現在県内の小中、高等学校には、英語発音や国際理解教育の向上のため多くのALTが配置されていますが、今回県立高校にいるウィスコンシン州出身のALTを紹介します。



後列左から

Alexander Foxcroft-Knop (松戸国際高校)
David Klug (流山おおたかの森高校)
Patrick Grimes (安房高校・長狭高校)
Benjamin Van Orsdol (八街高校)
Kenyeh Ganda (東金高校)
Victoria Vlisides (匝瑳高校)
Alana Strait (匝瑳高校)

前列左から

Rachel Wang (土気高校・千城台高校)
Rebecca Hafermann (流山おおたかの森高校)
Margaret O'Connell (柏井高校)
James Weber (松戸国際高校・薬園台高校)
Mary Johnson (成田国際高校)
Kristen Roth (幕張総合高校)
Claire Stathas (君津高校)
Kate Johnson (東金高校)

※ () 中は所属高校

CWAからのお知らせ



千葉ウイスコンシン協会では、会員の方に、出展内容の企画、イベント当日のスタッフ、ウイスコンシン州友好使節団受入の際の随行の業務にご参加いただいております。

ご自身の都合の付く範囲で千葉ウイスコンシン協会の活動にご参加してみませんか。

会員の方でご興味のある方は次のメールアドレスまでご登録をお願いします。

【kokusaig2@mz.pref.chiba.lg.jp】

CWA 入会のご案内

- 【会費】(2014年5月1日現在/個人110名・団体16団体・賛助3団体)
- 1 個人会員 2,000円
 - 2 団体会員 10,000円
 - 3 賛助会員 20,000円(1口)(※何口でも可)

【事業内容】

- 1 ウイスコンシン州との姉妹交流事業(派遣・受入)
- 2 会員等交流事業
- 3 ウイスコンシン州に関する情報収集とその発信
- 4 地域の国際交流事業への参加

【特典】

- ☆ 会報(CWA NEWS)の発行
- ☆ ウイスコンシン州との交流イベントの企画運営に参加
- ☆ 交流イベントのご案内
- ☆ ウイスコンシン州内の団体等との交流をバックアップ

【会費納入方法】

銀行振込(ゆうちょ銀行・千葉銀行)または郵便振替
※詳しくは下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

電話 043-223-2394(千葉県総合企画部国際課内)

【編集後記】

寒い日が続きますがいかがお過ごしですか。今年は千葉県とウイスコンシン州が姉妹提携してから25周年で節目の年です。25年後の両県州がどうなっているか見当もつきませんが、楽しみでもあります。皆様のご支援、ご協力を頂きながら今年もCWAは地道な活動を続けてまいります。

発行所：千葉ウイスコンシン協会

発行人：森山茂男 編集：広報部会

<http://www.chiba-wisconsin.jp/>

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階

(公財)ちば国際コンベンションビューロー内

※電話でのお問い合わせ ☎043-223-2394(千葉県国際課内)